

小学校でのPBS（ポジティブな行動支援）の実践と 子どもたちの変容

— 先行的に実践に取り組み、成果をもとに
学校全体に広めることを通して —

学籍番号 209108

氏名 岡本 紗奈

主指導教員 長谷川和弘

1. 背景

1.1 事例校の現状と課題

事例校の現状として、子どもの問題行動が多く、その問題行動は友だちへの暴言や暴力、教師に対する暴言や暴力、器物破損、授業への不参加、危険な行動など多岐にわたっている。「自分にはよいところがある」の問いに対して肯定的に回答した児童の割合、「学校のルールを守っている」の問いに対して肯定的に回答した児童の割合ともに大阪市の平均から低い。このように、子どもの自己肯定感が低く、子どもの現状に教職員の指導が即していない、教職員の協力体制ができていないなどの課題がある。

1.2 報告者の立場

実践開始当初、学校全体でPBSを共通理解することに困難があったため、報告者自身がPBSの考えを取り入れた実践を行い、その様子を教職員へ広めていく働きをすることになった。同時に学校全体の取り組みの中では、研究授業の中にPBSを取り入れることになった。

実践2年目を迎え、報告者は校務分掌のPBS担当になったことで、PBSについて話し合う機会を作り、PBSの取り組みを生活指導でも学校全体に広めていくことになった。

2. 先行研究

PBS（平澤）とSWPBS（庭山）、多層支援システム、通常学級における行動支援、学校全体の取り組みの実践を基に実践課題研究を進めることとした。

3. 基本学校実習の取り組み

基本学校実習では主に3つに分けて取り組みを行った。

1つ目は、学校全体に広めていくために先行して学級の子どもに対して行ったPBSである。学級の児童に対して実践を行い、児童の行動観察とアンケート調査を行った。できていることを可視化するための取り組み（がんばりカード）、子どもが考える望ましい行動（すばらしい行動マップ）、子ども同士が認め合う取り組み（すばらしい行動見つけ）の3つの取り組みを行った。

2つ目は、学校全体での PBS の取り組みである。研究授業のテーマに PBS の考えを取り入れ、全体討議の場で子どもを肯定的に捉えることについて話し合った。提案授業と3回の研究授業の中での授業における PBS について協議を行った。

3つ目は、先行実践を広めるための取り組みである。PBS を推進していくために集まったメンバーで校内全体へ広めていく方法を話し合い、PBS を通じて高めたい子どもの姿の共有を行うことを決めた。

先行実践の結果、児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の問いに対して肯定的な回答の割合が増加した。一方、研究授業として学校全体で取り組んだ結果については、肯定的な回答の割合が少しは増加したものの、学校全体に広めていくには他の方法の方がよいのではないかと意見が出るなど問題点も出てきた。

4. 発展課題実習の取り組み

発展課題実習も主に3つに分けて取り組みを行った。

1つ目は、学級における取り組みである。学級における取り組みも徐々に広まり、実践される学年も見られるようになった。報告者は、担当する学級の実践を中心に引き続き取り組みを継続することにした。具体には、できていることを可視化するための取り組みⅡ(がんばり表)、子どもたちが協力して望ましい行動を増やす取り組み(きらきらカード)の2つの取り組みである。

2つ目は、学校全体で取り組みⅡである。PBS を通じて高めたい子どもたちの姿の共有を行い、その中の重点取り組みとして PBS を取り入れたあいさつ週間を実施した。あいさつ週間では、教職員の連携もあり、子どもたちも進んであいさつを行うことができるようになった。

3つ目は、それぞれの実践を広める取り組みである。PBS 通信を発行し、各学級や学年で取り組んでいる PBS の実践の紹介を行った。

PBS の取り組みが SWPBS (学校規模の PBS) へと広がった結果、学級のアンケートにおいても、学校の児童全員を対象にしたアンケートにおいても肯定的な回答の割合が上昇した。

5. 総合考察

本実践研究では、1年目は学級単位での実践を行い、2年目では学校規模での実践を行った。学級単位でも子どもたちの様子によりよい変容が見られ、アンケート調査でも肯定的な回答が増えた。さらに、学校規模で実践を行うことで子どもたちの様々な場面でのよりよい変容が見られ、アンケート調査の肯定的な回答の増加率も大きくなった。学校規模で実践を行い、継続することで大幅な肯定的な変容がある。SWPBS は子どもの自己肯定感を高めることが明らかになった。そして、できれば1年目から学校全体で取り組んでいくことが望ましいことも明らかになった。

6. 今後の課題

今後の課題は、支援の幅を充実させていくこと、組織的に継続を行っていくこと、エビデンスを捉え PDCA サイクルでさらなる質的向上を図ること、研究授業に PBS を取り入れることに再度挑戦すること、PBS の実践を中学校区にも広めていくことの5点である。